

第 134 回技術士包装物流会関西支部研究会（国内見学会）議事録

平成 29 年 6 月 9 日
関西支部長 高垣俊壽
作 成 真野仁孝

見学日時：平成 29 年 6 月 6 日（火） 集合：8:30 新大阪駅、9:30 京都駅
解散：19:30 京都駅、20:30 新大阪駅
(1) トヨタホーム株式会社 春日井事業所 : 13:00~15:00
(2) トヨタ自動車株式会社 大口部品センター : 15:30~17:30
見学場所：(1) トヨタホーム株式会社 春日井事業所 : 愛知県春日井市神屋町引沢 1 番地
(2) トヨタ自動車株式会社 大口部品センター : 愛知県丹羽郡大口町新宮 1 丁目 135
ご対応様：(1) トヨタホーム株式会社 春日井事業所 : 国島取締役様、松永グループマネージャー様
(2) トヨタ自動車株式会社 大口部品センター : 石山センター長様、可児課長様
参加者 : 総数 24 名

◆概要

技術士・研究会のメンバー以外に一般参加の方を含め 22 名が早朝に新大阪駅、京都駅から MK 観光バスに乗車した（2 名は直行）。世話役の前田副支部長より、見学会参加の歓迎の挨拶と当日のスケジュールの説明があった。途中のサービスエリアにて、参加者による自己紹介後、昼食をとった。

最初の見学先のトヨタホーム（春日井事業所）には 13 時前に到着し、ラウンジルームで説明を受けた後、工場内を約 40 分見学させて頂いた。見学後、私共の質問に対して懇切丁寧に応答して頂き、記念写真撮影後、14 時 30 分頃出発した。

次の見学先のトヨタ自動車（大口部品センター）には 15:30 前に到着し、約 30 分間会議室にて説明を受けた後、約 1 時間にわたり倉庫内を見学させて頂いた。見学後、約 20 分間、質問に対して懇切丁寧な応答をして頂き、記念写真撮影後、17 時 30 分頃出発した。

帰路のバスの中で弁当とビールを飲食しながら歓談・交流し、京都駅、新大阪駅に順次到着し全員無事に帰着した。見学先が 2 箇所ということもあり、中身の濃い、大変充実した見学会であった。

◆見学会報告

(1) トヨタホーム株式会社 春日井事業所

①工場概要（国島取締役様ご説明）

当事業所は 1987 年 4 月に操業を開始し、「工場で家をつくる」という考えに基づいて年間 9,000 名の見学者（受注者、一般等）を受け入れ、年間 2,200 棟の生産を行っている。当事業所では、販売の 92% がユニット工法によるもので、住まい全体の 85% を工場で作くり、半製品として各現地に出荷している。現地では、約 11 ユニットの組み合わせ、約 6 時間で家の形が出来上がる。その後、内装を丁寧につくり込み完成させる。「車」と「住宅」の生産の違いについてもご説明があり、「住宅」に「かんぱん方式」を採用した場合、物割り欠品が発生するため現在は採用していないとのことであったが、生産方式のベースは「トヨタ生産方式」（TPS）であり、JIT、自動化などを活用しているとのことであった。

②工場見学（国島取締役様ご説明）

見学の前に、モデルルーム（ユニット）の見学があり、柱がなく広い大開口の間取りを体感すると共に、（株）デンソーとの共同開発の「スマート・エアーズ」で健康、快適、省エネの空調管理の説明があった。バスで工場前まで行き工場内に入ると、1 ユニット（部屋）単位で流れている様子を目の当たりにした。「鉄骨フレームを作る」→「ユニットを組み立てる」→「ユニットに内装を取り付ける」→「最終検査をする」→「出荷」の各工程について詳細な説明をして頂いた。事前のご説明の通り、「塗装工程」や「溶接工程」など、車で培った技術が生かされていると感じると共に、「床」と「天井」ラインが平行に走っている様はまさに壮観であった。また、溶接技術認定員や最終検査認定員などが顔写真付きで掲示されており、熟練の技に支えられていると感じた。その他、具材受け入れ、サッシラインなどの説明後、屋外に出て、設計棟やテクニカルセンター（研修所）の外観を見て工場見学を終了した。

③質疑応答（国島取締役様、松永グループマネージャー様ご対応）

具材受け入れ担当の松永グループマネージャー様を加えて、私共の数件の質問に対して、懇切丁寧にお答えして頂いた。

④謝辞（高垣支部長）

最後に高垣支部長より、今回の工場見学について国島取締役はじめ皆様に貴重なお時間を取って頂いたことに感謝の意を表すと共に、「一棟流し」や TPS の考え方が生かされたラインを拝見させて頂き、単に「ハウス」ではなく「暮らし」を提供するという、トヨタホーム株式会社様の姿勢を感じることができたことにも感謝の意を表した。

(2) トヨタ自動車株式会社 大口部品センター

① センター概要 (石山センター長様ご挨拶、可児課長様ご説明)

初めに石山センター長様より、現在トヨタ車は世界中に 9,000 万台強走っており、その全ての車が補給部品のお客様で、トヨタ全体としては部品の形状により 4 つの部品センターに分けており、当センターは中・小物の部品を取り扱う拠点として 1978 年に立ち上げ稼働してから約 39 年間、人を中心に運営してきたとのご説明があった。

次に可児課長より具体的な説明があり、当センターの作業は、部品受入(他センター、仕入先)→入庫→保管→出庫→発送(国内向け;共販店へ、海外向け;他センターへ)、という流れに沿って行われている。

総敷地面積 10 万㎡(総建物 5.6 万㎡、倉庫 4.8 万㎡)、管理点数 135 万点、在庫金額 64.5 億円、という規模に、約 770 名(全ての要員)が勤務されているとのことであった。

職場運営は TPS により進められ、「標準手持ち」、「ランプにて指示」、「バーコードチェック入庫」、「入庫計上」等にて進捗管理を行っている。また、「安全作業」、「在庫管理」、「保管管理」に拘り、保管の 7 原則(品目集約、タテ置き、目の高さ、重いものは下段、所番地、異常区分、流量区分)に則り行っている。

また、安全な職場づくりとして、「バトンタッチゾーン」、「遮断機による分離」、「安全体感道場」を行っていると共に、場内の歩行時は「ポ・ケ・手・な・し」(ポケットに手を入れない、携帯を見ながら歩かない、手すりを持って階段を昇降する)を実践しているとのことであった。

② 倉庫内見学

受け入れプラットは全部で 9 つあり、7 つが国内用、2 つが海外向け用である。全て時間指定であり、トラックは 20 分前に来て待機し時間になったら入り、トラック両サイドに 15 分間で荷下ろしを行う。今回は国内用プラットを見学させて頂いた。「納入ダイヤ管理板」にてスケジュール管理を行い、

「作業調整管理板」にてその日の作業員の欠勤状態を確認して、「進捗管理板」や「アンドン」等により進捗管理されている様を実際に見学させて頂いた。また、「クオリティーインフォメーション」では 197 ヶ月間ノーミスであった作業員の顔写真が掲示され、品質レベルの高さを感じた。

場内ではトヨタ関係以外の 2 社の人員も働かれておられるが、安全や品質教育は共有されているとのことであった。

16:00~17:00 と一日の中で最も忙しい時間帯に見学させて頂いたこともあり、作業員一人一人が倉庫内を運搬車両(フォークリフト、エレカ・くるる)にて効率的に作業されているところを見せて頂いたが、エレカ・くるるの後部に取り付けられているブラシにより、場内がクリーンに保たれていることが大変印象深く、このようなところにも知恵が詰まっていることを感じた。

③ 質疑応答 (可児課長様ご対応)

私共の数件の質問に対して、懇切丁寧にお答えして頂いた。

④ 謝辞 (高垣支部長)

最後に高垣支部長より今回の見学について、大変お忙しい時間帯にも関わらず、石山センター長、並びに可児課長はじめ皆様に貴重なお時間を取って頂いたことに感謝の意を表すと共に、当センターの安全に対する拘りや、39 年間の「知恵の結晶」を拝見できたことにも感謝の意を表した。

◆ 第 135 回研究会予定:

日時: 2017 年 8 月 31 日 (木) 18 時~21 時

場所: 松心会館 2F

講師: 公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 大西康晴 様

演題: 「国際物流におけるコスト削減の実例」について



トヨタホーム(株)見学後の集合写真



トヨタ自動車(株)大口部品センター見学後の写真